

修士論文(要旨)
2015年1月

視覚障害を持つ留学生に対する日本語学習支援

指導 佐々木倫子 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
213J3022
浅野有里

Master's Thesis
January 2015

A Study of Japanese Language Education for Visually Impaired
Foreign Students: Some Recommendations

Yuri Asano
213J3022

Master's Program in Japanese Language Education
Graduate School of Language Education
J.F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Michiko Sasaki

目次

第1章	はじめに	
1.1	研究の背景	1
1.2	研究の目的	3
1.3	障害者と日本語教育	4
1.4	本稿で使用する用語	5
第2章	視覚障害について	
2.1	視覚障害とは	6
2.2	点字	8
第3章	障害者福祉	
3.1	国連「障害者の権利に関する条約」	15
3.2	特別支援教育	18
第4章	視覚障害者と日本語教育	
4.1	先行研究	21
4.2	社会福祉法人 国際視覚障害者援護協会	28
第5章	インタビュー調査概要	
5.1	調査の目的	31
5.2	留学生調査	31
5.3	教員調査	32
5.4	調査結果概要	33
第6章	視覚障害を持つ留学生の漢字学習	
6.1	日本の盲学校における漢字学習の現状	42
6.2	字形に注目した漢字の指導法	42
6.3	留学生に対する漢字の指導	45
第7章	総合的考察	
7.1	視覚障害を持つ留学生に必要な日本語	54
7.2	留学生の支援体制	58
7.3	今後の展開	61
	謝辞	63
	参考文献・参考URL	i-v
	資料	I-XI

要 旨

本研究では、これまでほとんど日本語教育分野で報告のない視覚障害者に対する日本語教育について、その現状や今後の課題を明らかにすることを目的とした。社会福祉法人国際視覚障害者援護協会（以下 IAVI）の奨学制度で来日し日本の盲学校で理療（あん摩・マッサージ・指圧、鍼、灸）を学んでいる視覚障害の留学生を対象とし、表音文字である日本語の点字を使用して、独特の文字体系を持つ日本語をどのように学んでいるか、特に表音文字である漢字の学習の必要性やその指導法について調査を行い、今後につながる指導法の提案を試みた。同時に日本で学ぶ留学生に対し、どのような支援が必要であるかを考察した。また近年、障害や個々の問題を超越し、すべての価値を認め合うことを目的としたインクルージョン教育が浸透しつつある。本研究を通し、今後インクルーシブな日本語教育のあり方についても考慮していかなければならないことが示唆された。

まず、視覚障害の定義、日本国内における社会福祉の現状について整理を行った。視覚障害は「全盲（見えない）」と「弱視（見えにくい）」に大別される。国内の視覚障害者は約 31 万人とされているが、様々な統計をまとめると、2 割から 3 割が全盲、7 割から 8 割が弱視とされる。全盲者は点字を使用すると思われがちだが、実際に点字が使用できるのは 1 割程度であり、点字よりも音声からの情報に頼る人が多い。これは中途失明者の点字習得の難しさや、視覚補助具などの普及が進み、視覚障害があっても音声を使って通常の文字による文章の読み書きが可能になっているためでもある。

また、2006 年に国連で採択された「障害者の権利に関する条約」の批准に向け、国内では様々な法整備が行われ、2014 年 1 月、批准に至った。障害者も権利や義務を持つ主体者であり、社会全体が障害のある人々の自立した生活を支援する障害者福祉が実現できるよう「社会モデル」「合理的配慮」「インクルージョン」などの考え方が法的にも社会的にも適用されつつある。特に「インクルージョン」は教育面において、障害の多様化や重複化が見られる児童・生徒の実情に合わせ、「特別支援教育」という形で制度の見直しが行われている。

さらに先行研究として、日本語教育から金山(2003)、田中(2006)、障害者教育から工藤(2010)の実践報告を採り上げ、考察した。大学の短期日本語コースと盲学校の理療科における視覚障害を持つ留学生に対する学習支援の報告であるが、いずれの報告からも、学習者の背景やニーズの把握に努め、それに合わせた指導を行うことの重要性が示唆されている。

以上を踏まえ、現在日本国内の盲学校の理療科で学んでいる留学生 7 名と、留学生の受け入れ実績がある盲学校 3 校の教員 10 名にインタビュー調査を行った。調査結果は佐藤(2008)の「事例-コードマトリックス」を用いて質的分析を行った。分析の結果、漢語が多い「専門用語」の学習の難しさ、「国家試験」の難しさと受験の意義、周囲の日本人との関係や学習スタイルにも影響する「学習環境」の 3 点が浮かび上がってきた。

まず、漢語が多い「専門用語」の学習の難しさについて、盲学校における日本人児童・生徒に対する漢字教育から、字形に注目した道村(2010)の指導法を取り上げ、視覚障害を持つ留学生に対する漢字教育について考察した。道村(2010)の音読み・訓読みを合わせた

導入法や既習漢字の整理法などは留学生への漢字指導にも援用できるが、片仮名の字形の触察から学習を積み上げる方法は膨大な時間を要するため、有効ではないと判断した。留学生の限られた時間や学習の負担から考えると、現在学んでいる専門科目の内容に沿って、出てきた漢語の語構成から接頭、接尾辞的な役割を持つ漢字を整理し、新出の漢字・漢語の推測ができるようにするための漢字学習が効果的であると考えられた。そのためには、盲学校入学後に初めて漢字を学び始めるより、入学前の日本語研修期間中の初級日本語の段階から初級語彙の導入の中に漢字の説明を取り入れ、漢字の知識を蓄えておく必要性がうかがえた。

さらに分析によって挙げられた上記の3点について、研修期間や将来的に専門分野の日本語を学ぶ点などが IAVI の奨学制度と類似している EPA 介護福祉士候補について採り上げ、専門日本語教育という視点から両者の日本語研修を比較した。その結果、留学生の来日後の日本語研修と盲学校進学後の学習内容が、より連繋する必要があることが明らかになった。また、それに伴い、支援体制も来日前から帰国後の将来設計まで、長期的な視点で留学の全体像をとらえ、奨学制度の趣旨と留学の目的を確認しながら支援する必要があると考えられた。IAVI ではすでにその支援の見直しを始めており、盲学校、関係団体とより連携を強化する予定である。今後も IAVI の留学生を含む視覚障害を持つ日本語学習者に対し、よりよい支援ができるよう、研究を重ねていきたい。

参考文献

- 青柳まるみ・鳥山由子(2012)『視覚障害教育入門』ジヤース教育新社
- 石川准(2002)『障害学の主張』明石書店
- 柿澤敏文・佐島毅・鳥山由子・池谷尚剛(2007)「全国盲学校児童生徒の視覚障害原因等の実態とその推移:2005年度全国調査結果を中心に」『障害科学研究』31号, pp.91-104
- 金山泰子(2003)「視覚障害者のための日本語教育—サマーコースにおける授業報告と今後の課題」『ICU日本語教育研究センター紀要』13号, pp.109-119
- 許明子・加藤あさぎ・鈴木秀明(2012)「障害を有する日本語学習者に対する支援の実践報告—身体障害者および視覚障害者の学習支援を通して—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』27号, pp.345-352
- 工藤滋(2010)「視覚障害の外国人留学生に対する職業教育」『内外教育』6009号, pp.6-7
- 河野邦夫・伊藤隆造・坂本裕和・前島徹・樋口桂(2006)『解剖学第2版』医歯薬出版
- 佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法 原理・方法・実践』新曜社
- 澤田真弓(2007)『点字使用者のための漢字学習プログラムおよび教材の開発』科学研究費補助金(基盤研究C)課題番号16530634平成16年度~18年度研究成果報告書
- 障害者差別解消法解説編集委員会(2014)『概説障害者差別解消法』法律文化社
- スリーエーネットワーク(2012)『みんなの日本語初級I第2版』スリーエーネットワーク
- 田中亜子(2006)「視覚障害を持つ日本語学習者に対する読解学習支援の試み」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』21号, pp.63-75
- 特定非営利活動法人 全国視覚障害者情報提供施設協会(2010)『初めての点訳第2版』特定非営利法人全国視覚障害者情報提供施設協会
- 長瀬修(2013)「多文化共生と障害の文化モデル—一人ひとりへの合理的配慮」『多文化間共生論多様性理解のためのヒントとレッスン』第10章 pp.221-245, 明石書店
- 西口光一(監)(2014)『みんなの日本語初級I第2版英語版』スリーエーネットワーク
- 登里民子・栗原幸則・今井寿枝・石井容子(2009)「インドネシア人介護福祉士候補者を対象とする初級からの専門日本語教育」日本語教育学会春季大会予稿集, pp.176-181
- 春原憲一郎(2006)「専門日本語教育の可能性—多文化社会における専門日本語の役割—」『専門日本語研究』8号, pp.13-18
- 松井亮輔・川島聡(2010)『概説障害者権利条約』法律文化社
- 道村静江(2010)『口で言えれば漢字は書ける! 盲学校から発信した漢字学習法』小学館

参考 URL (2014年12月14日最終検索)

- 外務省「障害者の権利に関する条約(略称:障害者権利条約)」
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index_shogaisha.html
- 厚生労働省(2008)「平成18年身体障害児・者実態調査結果」
http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/shintai/06/dl/01_0001.pdf
- 道村静江「「視覚障害者の漢字学習」の指導法と実践事例」点字学習を支援する会
<http://tenji-sien.net/kanji/sidouhou.htm>
- 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課(2007)「特別支援教育」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/004/002.pdf